

施策	4301 予防対策の強化						
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	無	受益者負担	余地有	
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	無	成果向上の余地	有	
対象	市民						
施策が目指す姿	各種健診や予防接種の実施、新たな感染症の発生・拡大を防ぐ意識啓発や体制づくり、生活習慣病の予防等を図る。						
成果指標	国民健康保険人間ドック（一般、脳）受診者数・・・900人（現状値851人） 国民健康保険特定健康診査受診率・・・55.0%（現状値27.8%） 後期高齢者健康診査受診率・・・30.0%（現状値23.5%）						
目 標 達 成 状 況			平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	成果指標1 [人]	予定	900.00	900.00	900.00	900.00	900.00
		実績	932.00	1,020.00	688.00		
	成果指標2 [%]	予定	33.20	38.70	44.10	49.60	55.00
		実績	26.70	33.40	23.20		
		単位コスト	31,282.32	27,630.42	39,493.32		
	成果指標3 [%]	予定	26.00	27.00	28.00	29.00	30.00
		実績	21.07	23.00	20.45		
		単位コスト	39,641.10	40,124.17	44,804.16		
	成果指標4 []	予定					
実績							
単位コスト							
トータルコスト (千円)	予定	907,352	922,856	916,245	0	0	
	実績	835,238	922,856	916,245	0	0	
内 部 評 価	貢献度	感染症等を未然に防ぐ予防接種、病気の早期発見・早期治療により重症化を予防する人間ドックを含む健（検）診は、市民の健康づくりの充実に貢献している。					
	達成状況	新型コロナウイルス感染症の流行により、種々の対策を行った。また、コロナ禍により、受診控え及び予防対策のための人数制限等も加わり、健診等の受診者が減少した。					
	課題	新型コロナウイルス感染拡大防止対策が必須。また、特定健康診査等は、年1回の健康診査として受診意識を高めるとともに、感染症対策を徹底し、受診を促す必要がある。					
	取組方針	予防接種を始めとする新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を進めながら、各種健（検）診、人間ドック等の受診者の増加、受診率の向上を図りたい。					
外 部 評 価							
単 位 施 策 達 成 の た め の 事 務 事 業	事業コード	名 称				トータルコスト(千円)	達成度
	271101	予防接種事業費				459,707	100
	271201	新型インフルエンザ対策事業費				4,004	100
	824601	新型コロナウイルス感染症対策事業費				28,980	100
	145901	健康診査事業費				63,110	91
	271506	狂犬病予防事業費（岩舟）				4,500	84
	717701	データヘルス事業費				10,268	82
	271502	狂犬病予防事業費（大平）				1,500	79
	271503	狂犬病予防事業費（藤岡）				2,250	77
	271504	狂犬病予防事業費（都賀）				750	75
717101	高齢者歯科口腔健診事業費				2,487	72	

単位施策評価表 補表

施策	4301 予防対策の強化		
区分	妥当性	妥当	予防接種法や健康増進法、高齢者の医療の確保に関する法律法令で、市での実施を求められている。
	コスト削減の余地	無	受診者の増加、受診率の向上で、コストは上昇する。
	受益者負担	余地あり	検診自己負担金の増額等は可能ではあるが、受診率の低下及び近隣市町負担金とのバランスに注意が必要。
	上位貢献度	有効	病気を未然に防ぐ予防接種、病気の早期発見・早期治療により重症化を予防する健(検)診等は、健康づくりの充実に貢献する。
	類似事業の有無	無	関係法令で市が実施することとされており、類似事業はない。
	成果向上の余地	有	健(検)診受診率の向上の余地がある。
内部評価	貢献度	感染症等を未然に防ぐ予防接種、日頃の健康管理への動機づけや病気の早期発見・早期治療により重症化を予防する人間ドックを含む健(検)診は、予防的な施策として市民の健康づくりの充実に貢献したと考える。	
	達成状況	市の助成を使った人間ドックの受診者数、国民健康保険特定健診の受診率、後期高齢者健康診査の受診率は、年々伸びてきていたが、新型コロナウイルス感染症の流行により、受診控えや集団検診等における予防対策のための人数制限等が影響し、大幅な減少となった。 新型コロナウイルス感染症の流行により、県健康福祉センター等と連携し、対策を行った。	
	課題	年代や環境、考え方によって健診受診に対する意識は様々であり、画一的に受診を強制することはできないが、自分自身の健康状態に興味を持つように促すことで、年に1回の健診受診の意識を高めていく必要がある。 新型コロナウイルス感染症の流行により、感染症対策に重点を置いた事業の実施が必要となる。	
	取組方針	人間ドック受診者への助成は、見直しながら継続する。 広報紙やホームページを使った広報活動のほか、個別通知による受診勧奨(コール)、再勧奨(リコール)を関係機関と連携しながら効果的に行い、受診者数の増加、受診率の向上を図っていく。 集団検診において、新型コロナウイルスを始めとする感染症対策を十分に行い、安心して受診できる環境を整える。 新型コロナウイルス感染拡大防止の注意喚起及び予防対策を迅速に進める。	